

「志の公認会計士

久野康成の 「私なら、こうする!」

第66回

非常識な実践経営アドバイス



Question

英語力が中級レベルからなかなか、上達しません。上級レベルに到達するための良い方法はありますか?

(名古屋市 38歳)

Answer その1

目標設定を誤れば、練習の仕方も間違つてしまつ

ではありません。37歳から始め、8年たつたピアノのレベルも中級のままです。なぜこうなつたのか、それには理由があるはず

つて低迷しています。TOEFLの成績も2年間、800点台

をウロウロしています(現在840点)。私の場合、中級レベルで低迷しているのは、英語だけ

ピアノは、娘と妻がピアノ教室に通い始めたことがきっかけとなり、私も弾けるようになります。

たいと思って練習を始めました。でも、今さら基礎から練習しても、自分が弾きたい曲を弾けるようになるまで何年もの時間が費やされ、結局は途中で挫折するものが落ちです。自分が弾きたい曲は、「フジコ・ヘミングス」が得意にしているリストの「ラ・カンパネラ」です。ピアノの先生にお願いしたところで、相手にお願いしたところでは、相手に来てもらえるはずもなく、独学

まずは、バッハのメヌエットから始め、乙女の祈り、月光第一楽章、幻想即興曲を何とか弾けるようになりました。ここまで約2年かかりました。ショパンの幻想即興曲も素人の私にとっては、非常に難曲で、毎日2時間、半べそをかきながら夜中にピアノと向かい合いました。

しかし、このままで素人特有の変な指の癖がついてしまうと思い、ここで娘のピアノ教室に通いました。先生から幻想即

興曲を教わり、3か月ほどたつたところで、子どもに交じって発表会にも参加しました。来年こそは、ラ・カンパネラで挑戦と意気込んだのですが、先生から「リストは教えられない」と言わされました。その先生は音大のピアノ科ではなく、声楽科卒だったのです。

結局、これで振り出しに戻り、また独学でさらに2年間かけて、ついにラ・カンパネラが弾けるようになりました。現在は、毎週、別のピアノ教室で稽古を受けていますが、中級を脱することができます。単に弾けるというだけで、「美しく奏てる」レベルには、到底及ばないので達しないのでしょうか？大人になつて始めたのが原因なのが、先生に尋ねました。すると先生は「子どものうちはピアノの『楽しさ』を教えるため、基礎トレーニングより、子どもの好きな曲を中心に教え、ある程度の

年齢に達してから、基礎に戻る」と言いました。私は、曲ばかり弾いていて、基礎の習得を怠っていたのです。

つまり、自分の目標設定に問題があったのです。私は、ラ・カンパネラを弾けるようになることが目標でしたが、既にその目標は達成されました。しかしその先の目標設定が曖昧だったので。目標設定が誤つていれば、練習方法も誤ります。曲を弾いてばかりいて、部分練習を怠つていたのです。ピアノの部分練習は、延々と同じフレーズを繰り返すことです。周りの家族からすれば、雑音以外の何物でもありません。高い目標を設定し、かつ、家族とも共有しない限り、自分も家族もその練習に耐えられないのです。

最近、英語でも難しい表現を避けた「グロービッシュ」が提唱されています。確かに、英語をコミュニケーションの手段と考えれば、英語を母国語としない人にとって、効果的なツールと言えます。しかし、「これで良し」とするか否かは、自分次第です。

耐え難き基礎トレーニングの繰り返しが重要

英語に関しても全く同じでした。私の目標は、外国人とコミュニケーションができるようにな

ること。つまり、英会話ができることでした。これもまた、既に目標を達成していました。だから、中級以上になれなかつたのであります。私自身、中級から上級になるためには、目標を見直すしかありません。目標設定は、ある意味、生き方の選択の問題です。中途半端なレベルでもそれに甘んじることは可能です。

避けていた「グロービッシュ」が提唱されています。確かに、英語をコミュニケーションの手段と考

えます。しかし、「これで良し」とするか否かは、自分次第です。

(このコーナーでは、経営に関するよろず相談を読者の皆様から受け付け、実践的アドバイスとしてお答えしております)

しかし、上級になるためには、生産性より絶対投入時間が重要なになります。英語力の中級と上級の最大の差は、語彙力に現れます。語彙の習得には、ピアノの基礎トレーニングと同じ繰り返し練習が要求されます。これを

避け、英語を楽しんでいる間は、上級にはなれません。分野は異なれど、上級レベルになるためには、「覚悟」が必要です。耐え難き基礎トレーニングがポイントになります。

[プロフィール] 久野康成(くのやすなり)

公認会計士。人財開発・東京コンサルティングファーム会長兼CEO。東京税理士法人統括代表社員。1965年生まれ。愛知県出身。滋賀大学経済学部を卒業後、青山監査法人(プライス オーラーハウス)入所。監査部門・中堅企業経営支援部門にて、主に株式公開コンサルティング事業に携わる。98年久野康成公認会計士事務所を設立。東京のほか、横浜、名古屋、大阪、インドにて「第2の会計事務所」として会社を設立。経理部門へのスタッフ派遣・紹介など幅広い事業を展開し、グループ社員総数は360人に上る。著書に『できる若者は3年で辞める！』『2008年版 図解インドの投資・会計・税務の基本』『母性の経営—management therapy』(共に出版文化社)がある。